

『情報』 5刷 → 6刷 正誤表

場所	“「修正前」 → 「修正後」” の形式で表す
第2章 ○2.2.1項 p.17, 12行目:	「記号論によれば、記号は2つの側面をもつ。1つは“意味されるもの(シニフィエ)”, もう1つは“意味するもの(シニフィアン)”である。サービスエリアを表す図記号においては、“意味されるもの”は掲示板近くにあるサービスエリアのものであり、“意味するもの”の側面として図形のデザインや配置等を考慮する必要がある。」 ↓ ↓ ↓ 「つまり「記号」そのもの(例えば図2. 3のようなピクトグラム)と、記号によって指し示される事物・事象・概念(例えばサービスエリア)の2つ側面がある。以下、図記号のデザインという観点から幾つか注意すべき点について述べる。」
第3章 ○3.2.2項(b) p.46最下行:	「HTTP(Hypertext transfer protocol)という規格」 ↓ ↓ ↓ 「HTTP(Hypertext transfer protocol)という規約」
第3章 ○3.3.2項 p.54最下行～p.55:	「現在のLANの主流であるイーサネットでは、スター型の物理トポロジーとバス型の論理トポロジーを採用している」 ↓ ↓ ↓ 「LANの規格の主流であるイーサネットにおいて現在広く使われている規格では、スター型の物理トポロジーとバス型の論理トポロジーを採用している」
第3章 ○3.4.7項(a) p.64, 14行目 & 脚注:	「ホスト名とは、www.u-tokyo.ac.jp のようにアルファベットをピリオドでつなげたものでつなげたものである。」 脚注24「ハイフンと数値も位置によっては許される。」 ↓ ↓ ↓ 「ホスト名とは、www.u-tokyo.ac.jp のようにアルファベットをピリオドでつなげたものでつなげたものである。さらに、ハイフンと数字も位置によっては使うことができる。」 脚注24「国際化ドメイン名という、漢字などのASCII以外の文字を使える規格も存在する。そこではドメイン名を英数字からなるドメイン名に変換することで、旧来の規格との互換性を実現している。」
第3章 ○3.4.7項(b) p.65, 脚注27	「2005年現在、負荷を分散し安全性を高めるために、全世界で13台のルートサーバが稼働している」 ↓ ↓ ↓ 「2009年現在、全世界で13種類のIPアドレスでルートサーバが稼働している。負荷を分散し安全性を高めるために、一つのIPアドレスに対応する機器を複数の地域に配備している場合もある。」
第4章 ○4.2.2項【例4.1】p.74, 1行目:	「表現できず、」 → 「表現できず、多くの場合、」
第4章 ○4.3.3項 p.84, 2行目:	「階層モデルや」を削除
第4章 ○4.3.3項 p.84, 4行目:	「描かれることが多い。」 ↓ ↓ ↓ 「描かれることが多い。また、階層的な構造のモデルを階層モデルという。」 (「階層モデル」の部分はゴチ)
第7章 ○P.155, 表7.1の一番上の段	「内容」 → 「命令」